

教育研究の活性化を引き起こす創造的な改修（リノベーション）事例概要

○「次期国立大学法人等施設整備5か年計画策定に向けた最終報告（平成28年3月）」において、今後の国立大学等施設整備における中期的な対応策として、「機能強化や教育の質的転換の推進のための施設面でのニーズに対して、リノベーションの実施等により対応していくことが重要」と示されている。

○このため、各国立大学等において既に先行的に整備されている23の好事例を収集し、事例集として取りまとめた。

（掲載例）

イノベーション創出に資する施設整備

宇都宮大学 陽東8号館

～オープンな協働空間と校舎の教材化による教育研究拠点～

〈整備の方向性〉

建築・土木系の実践的な教育研究の活性化

- ・画一的に分散していた実験室等を再配置し、建築・土木系の実践的な教育研究に対応するフレキシブルな空間を整備。

〈計画・設計上のポイント〉

オープンな協働空間

- ・学年毎の製図室をワンルームのデザインスタジオとして統合し、学年間の交流と多様な学習形態に対応。

〈施設整備の効果〉

PDCAサイクルによる教育研究上の効果の検証

- ・改修前後で高校生・保護者を対象とする印象評価を行い、ポジティブな印象への大幅改善が得られたことで入学意欲の向上が期待される。



分散した製図室を統合し、フレキシブルな大空間に改修

学生の修学支援に資する施設整備

新潟大学 中央図書館

～快適かつ機能的な知の空間～

〈整備の方向性〉

ラーニングcommons機能の強化・拡充

- ・多様な学習形態に合わせた開放的な空間の整備。
- ・使いやすい学習環境を創造。

〈計画・設計上のポイント〉

多様な学修スペースを整備

- ・多様な学習スタイルにあわせて、ICT講義室・プレゼンエリア・グループ学習室、外国語学習支援スペース等を整備。
- ・什器類を自由に移動し、使いやすい学習環境を創造できる広いスペースを確保。

〈施設整備の効果〉

利用者の増加

- ・学生からは「グループ学習がしやすくなった」「気軽に入館できるようになった」等の声がある。



書架スペースを開放的な空間に改修

グローバル化に対応した施設整備

東京工業大学 石川台8号館（ELSI-2）

～国際色豊かな研究者が集い交流するコミュニケーションの場～

〈整備の方向性〉

異分野の研究者が集う場を提供

- ・日常的にコミュニケーションを図ることが可能な交流スペースを整備し交流を促進。

〈計画・設計上のポイント〉

外国人研究者に日本の風情を学んでもらう環境を整備

- ・掘り炬燵式の和室を設けるなど、意見交換や気分転換のための、快適な空間を創造。

〈施設整備の効果〉

日常的なコミュニケーション促進のための催し

- ・和室や会議室では、様々なランチ会や外国人向けの日本語教室が開催されている。
- ・毎日15時に研究者が集まりコーヒープレイク。



異分野の研究者が集い交流するコミュニケーションスペースを整備

その他

東京大学 法学部3号館

～歴史の継承・既存施設の有効活用～

〈整備の方向性〉

歴史的な景観軸を構成する重要建物

- ・正門から安田講堂に連なる景観軸に接している重要建物であるため、既存施設を活かした耐震化や狭あい解消整備を実施。

〈計画・設計上のポイント〉

歴史の継承

- ・外壁廻りに耐震補強を施さない等、倉建時の外観を尊重。
- ・増築部の高さとボリュームは景観シミュレーションに基づき地上からの見え方に十分配慮して決定。

〈施設整備の効果〉

若手研究者の育成環境の整備

- ・図書スペースの拡充により若手研究者の育成環境が充実。
- ・社会科学としての更なる規範研究への発展に寄与。



歴史的な調度品を残しつつ、交流ラウンジを整備